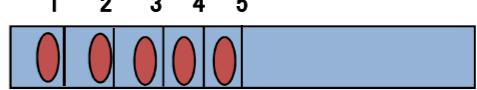
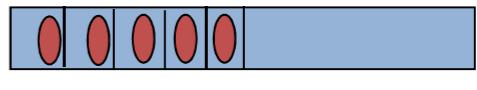


ID:

患者氏名:

様

日付	月 日()	月 日() ~ 月 日()	月 日()
経過	入院当日(治療前)	治療の期間	治療終了後～退院日
	入院時		退院時
達成目標	治療の経過がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおりに治療が終了する。 副作用出現時は適切に対処が受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 副作用への対処法を理解し実行できる。 退院指導の内容が分かる。
検査	血液検査、心電図、胸部エックス線撮影を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 抗がん剤投与後一定期間、尿量、尿の状態を確認します。その都度、尿は捨てずにコップに溜めて、看護師に声をおかけ下さい。 定期的に血液検査を行います。 	
治療・処置	身長、体重を測定します。 	抗がん剤の投与スケジュールに関しましては、病棟薬剤師より説明があります。 【投与から1～2日後】 - 投与時過敏症状 → 薬剤投与中あるいは投与数時間後にかゆみ、息苦しさ、発熱、汗が出るなどの症状が出た場合は、すぐに教えて下さい - 便秘 → 下剤の内服、グリセリン浣腸 - 吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状 → 吐き気止めの内服または注射 【投与から数日間経過してから】 - 口内炎 → うがいや抗炎症薬の軟膏を塗布 - 出血性膀胱炎 → ウロミテキサンの注射 【投与から1週間経過してから】 - 貧血 → 輸血(頻度は稀です) - 血小板減少 → 血小板輸血(頻度は稀です) - 白血球・好中球の減少 → G-CSF製剤(白血球を増やす薬)を注射 - 脱毛 → ウィッグやバンダナ、帽子などを使用 - 味覚の変化 → 味付けの工夫、うがいの励行	
説明・指導	<ul style="list-style-type: none"> 入院生活について説明します。 腎機能検査のため、尿をためる方法について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。 薬剤師から薬の説明があります。 	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えて下さい。 こまめに水分補給をしてください。	退院指導を行います(生活指導や次回外来再診日の連絡)
内服・点滴	現在飲んでいる内服薬の確認します。 内服薬は基本的に継続とします。 	1～5日目はアプレビタント125mg(吐き気止め)と膀胱炎対策としてダイアモックス(利尿剤)を飲みます。 6～7日目はダイアモックスを飲みます。 現在飲んでいる内服薬は基本的に継続とします。	 症状に応じて内服薬が処方されることがあります。(吐き気止めや下剤など)
食事	基礎疾患(糖尿病・高血圧など)に応じて、治療食が出ます。	食事の制限は特にありません。たくさん水分を取るように心掛けて下さい。吐き気のために食べられないときには、食事の変更ができますので相談ください。 症状にあわせて食事内容を変更することができます。	
生活・行動	特に行動制限はありません。		<ul style="list-style-type: none"> 白血球が減少すると感染に対する抵抗力が弱くなるため、人混みは避け、うがい、手洗いをしっかりと行い感染予防を行ってください。 血液データに応じて食事や行動の制限を行うことがあります。
清潔	シャワー浴ができます。(抗がん剤投与中、白血球が著しく低下している期間は、清拭のみとなる場合があります。)		
その他	熱が出た場合や血液検査などの検査結果に異常がある場合は、化学療法を延期することがあります。	他に気になる症状がありましたら、申し出てください。	1 2 3 4 5 イホマイド  エトポシド 

注)予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくに従って変わることがあります。

岩手医科大学附属病院

整形外科